

「平和への想い」 二年假屋冨爾

僕は、小学生の時に修学旅行で、中学生になつてからは講話で戦争の話や戦争の話を聞きました。二回とも、とても衝撃的で僕には想像もつかない話でした。

小学生の時は、修学旅行で知覧特攻平和会館に行きました。そこで多くの資料を見たり、話を聞いたりのすることができました。その時は僕は恐怖を感じたことを今でも強く覚えています。また、特攻隊の方が自分が爆弾となつて飛行機ごと敵に突撃したという話を聞いた時には、僕は「そこまでしてやらなければいけないことなのか」と思いました。そして特攻隊となつた人、また、その家族の気持ちを考えて、とても悲しいという言葉では表せないと思います。

中学生になり、戦争の講話を聞く機会がありました。この講話では、当時の生活の苦しさや大変さが伝わってきました。僕は、軍隊の人たちだけ

が大変だと思つていましたが、そうでない人も大変な状況だった事を改めて知り、とても勉強になりました。そして、講話を聞いた後、小学生の頃に感じた戦争に対する思いや考え方が自分の中で違つている事に気付きました。小学生の頃の僕は「怖い」だけでしたが、今は「怖い」より「やっ

てはいけない」「繰り返しはいけない」「思いが強くならないです。なぜなら戦争は、大切にしなければならぬ命を奪ひ合います。そのする本人たちも心に傷を負うのは当然で、またその家族も傷つけていくことになり、悲しみの連鎖が止まらないからです。そして、終戦後に先人たちが築いてきた日本の平和が崩れてしまうからです。

これからの日本をつくっていくのは僕たちです。「戦争をやつてはいけない」「戦争を繰り返してはいけない」という気持ちを大切にしたいです。そして、終戦して八十年近くになります。これから先、戦争を経験された

方の話を聴ける機会が少なくなつてきます。だから、戦争の事を忘れないために、僕たちが戦争について勉強し、次の世代にも話せるようにして、二度と悲しい戦争をしないようにしていきたいと思つています。そして平和な未来を自分たちからつくりていきます。

「新生徒会役員」 が決定しました

新生徒会役員選挙が行われました。新たに四人が執行部に選出されました。これまで先輩方が築き上げてきた須木中学校生徒会の伝統を引継ぎ、新しい取組にも挑戦して欲しいと思つています。

新役員のスタートは、十一月からになります。みんなが楽しく学ぶ事ができる生徒が主役の学校を期待します。

- ◇生徒会長 假屋 冨爾さん
- ◇生徒会副会長 中間 彩心さん
- ◇学習文化委員長 四位 朋華さん
- ◇生活保健委員長 谷口 優心さん

須木中通信



「生徒会役員選挙」

『新生徒会が誕生します！』

立会い演説会

九月二十九日(水)に生徒会役員候補者の演説・選挙を行いました。本年度は、四人の候補者が選挙公約を発表し、その公約に対する質問等に受け応えるディベーター



ト方式で行いました。一人とも須木中学校の将来を考えた公約で、「良いところはさらに伸ばし、課題については全校生徒で取り組んで修正をしたい。」と発表しました。先輩方の築いた伝統を受け継ぎ、新たな事にも挑戦したいという気概を感じる会となりました。



「選手推戴式」十月一日(金)、西諸地区中学校秋季体育大会へ向けた選手激励会を行いました。今大会は、剣道部キャプテンの假屋冨爾さんのみの参加となります。「夏の大会が終了し、一人で黙々と練習に励んできたこと、須木中学校の代表として、これまで取り組んできた事、監督や家族への感謝の気持ちも込めて一杯力を出し切りたい成果を充分発揮したい」と力強く誓ってくれました。

世界一明るい視覚障がい者講演会!

第三回DJ学園

十月十九日(火)、横浜市の成澤俊輔さんとリモートで繋いで、「第三回DJ学園」の講演会を行いました。



成澤さんは、一九八五年佐賀県生まれ。埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉学科卒業です。三歳の時に網膜色素変性症という難病と診断され、徐々に視力を失い現在では光を感じる程度との事。自身の障がいの他にも姉との小児がんによる死別や、幼児期の海外生活、普通学校での教育の壁、七年間にわたる大学

での苦悩など、様々な社会課題に遭遇した経験や大学卒業後の経営コンサルティング会社での勤務、その後独立を経験し障がい者やうつ、ひきこもり支援を行うNPO法人理事長として活躍されたときの事などを話してくださいました。

「大丈夫、頑張れます」の演題で、「とらえなおります」をキーワードにした深い話でした。

「目の見えない僕が、この令和の時代、コロナの時代にとっても生きやす

いと感じている」という話でスタートしました。例えば、「みんなはどんな時に悩みますか?どんな時に不安や緊張を感じますか?きくと僕はこう思っています。目から入った情報を誰かと比べた時、みんな落ち込んだり悩んだりするのはないでしょうか。人は目からの情報を他人と比較したり、評価したりして悩みます。僕は目が不自由なのでそんな悩みはありません。一人ではできない事も多いけど、その分できる事を増やしていくことができます。僕は学歴コンプレックスがあります。コンプレックスがあるという事は、理想があるからなんです。」

「全国へき地教育研究大会香島大会」

十月二十八日(木)と二十九日(金)の二日間本県で全国へき地教育研究大会が開催されます。

二日目の二十九日(金)は分科会となり、県内八会場に分散しての授業公開となります。須木中学校は、F分科会を担当し、一年生(音楽)、二年生(社会)、三年生(総合的な学習の時間)の授業を公開します。

当初の計画では、全国から先生方を迎えての公開授業となつていましたが、新型コロナウイルスの影響でリモート配信での授業公開となります。◇研究主題「目的意識をもち、確かな学力を身に付けた生徒の育成」◇副題「ICTを有効活用し、表現力やコミュニケーション力を育成する活動を通して」生徒たちはもちろん、先生方も全国の先生方や西諸県地域の先生方に、須木中学校のすばらしい



授業を発信できるように取り組んでいます。



九月二十二日(水)、一・二年生が畳づくりに挑戦しました。西諸地区の技能士の方々の指導で、楽しく丁寧に完成させる事ができました。畳の縁の縫い方や、針の通し方など丁寧に指導いただき、日本の伝統や匠の技に触れる貴重な体験ができたようです。併せて、畳の効能や効果として、消臭・吸音についても理解できました。

ものづくり体験

「秋を楽しみたい！」 新聞に掲載されました

私の秋は芸術の秋です。ほどよい涼しさになった通り道で絵の構想を練り、家でそれを描く、というのは私の秋のルーティンです。虫の音を聞きながら絵を描くと心が豊かになり大人っぽい絵などが描けるようになります。また、いつもは描かない花や木なども描きたくなります。他にも私は、読

いよう全力で楽しみたいです。

インタビュー



Q: こんなすばらしい文章表現ができる源は何だと思います？
A: 日々の日常での会話と読書だと思います。家族と話をする時やクラスの人と話すときなどに分かりやすく話す事を考えたり、母や兄などから色々な表現の仕方を吸収したりして文章の幅を広げていくと思っています。

Q: 読書の事が書かれていましたが、何歳の頃から本を読む(好き)ようになりましたか？
A: 幼い時は本と絵が私の遊びでした。本を読むきっかけは母だと思っています。母自身本を好きでよく読んでおりました。私もその影響で本を読むのが好きになりました。

Q: 読書の事が書かれていたのですが、何歳の頃から本を読む(好き)ようになりましたか？
A: 幼い時は本と絵が私の遊びでした。本を読むきっかけは母だと思っています。母自身本を好きでよく読んでおりました。私もその影響で本を読むのが好きになりました。

Q: 将来に向けて考えている事があれば教えてください。それに向かって努力していることがあれば教えてください。
A: 今の夢は保育士になる事です。それだけに道を絞らず、広い視点で色々な事に挑戦していきたいと考えています。気をつけている事は人に流されず、自分の意志で決める事です。今も流されてしま

書秋だとも思いますが、静寂の中で人目を気にせず読みたいですね。私はいつも手にしないような本も読みたいになります。例えばミステリー系や推理小説、絵本などです。だから新しいものと出会おう秋でもあります。私の秋はまだあります。手紙の秋、食欲の秋おしゃれの秋など、楽しい秋を使い残すことがな

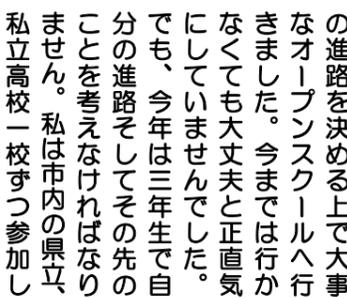
須木中学校区の教育目標



「全力で前へ進む！」 新聞に掲載されました

は向き合い方が違うと思うので、自分で決める事を気をつけて努力しています。

インタビュー



Q: 今年の夏休みは、自分の進路を決める上で大事なオープンスクールへ行きました。今までは行かなくても大丈夫と正直気にしていませんでした。でも、今年は三年生で自分の進路をその先のことを考えなければなりません。私は市内の県立私立高校一校ずつ参加しました。オープンスクールに参加して自分の目で見て、体験してみることの大切さがわかりました。実際にオープンスクールに参加しないと分からないと、具体的な夢や進路先も決まっていなかった私でも、しっかりと自分とも学校とも向き合えた貴重な体験だったと思います。これから自分の志望する高校を見つけて、夢を追いかけるためにも全力で勉強して、全力で今すべきことを考えて、全力で一緒に過ごしているクラスメイト十人と楽しく前へ進みたいと思います。誰かの役に立てる人間になりたいです。

Q: 中学校三年生になってからの気持ちの変化や行動の変化がありましたか？
A: 中学三年生になってからはじめの頃は正直大きな変化は感じませんでした。ですが現在、受験生という事を今さらですが強く感じており、もっと自分の進路について責任をもたなければと思う部分が変わりました。そこだと思っています。また、最上学年として学校の顔と言われる三年

Q: 夢や目標を実現するために大切なことや努力していきたいこと教えてください。
A: まず大切な事は、何事も全力で積極的に取り組む心だと思います。自分自身、前へ出て何かをするなど目立つことが苦手なので、夢や目標を実現するためには、今自分に無いものを身に付けるのも大切だと思います。次に、努力している事は、学力をつけることと周囲に目を配る事です。二つとも社会に出ると重要な事だと思つので、これから努力していきたい事でもあります。Q: 誰かの役に立って人間になりたいと書いています。すばらしいと思います。将来に向けて誰かの役に立つ行動について、考えている事があれば教えてください。
A: 今はまだ大きく何かをするなど直ぐには思いつきませんが、心がけている事は困っている人や誰でも手を差し伸べられるようにと考えています。例えば、ボランティアや生徒会での活動、委員会での活動など、みんなの役に立っていると感じています。小さな事でもコツコツと積み重ねて、いつか必ず役に立つ行動ができる人になりたいです。

Q: 須木中学校の課題として、「思考力・表現力」を伸ばしていきたいとみなんで取り組んでいます。が、少しずつその成果が現れてきているように感じます。他の生徒たちも短歌や詩、ものづくり、絵画などの得意な分野で表現活動を行っています。また、生徒会を中心にSDGsの取組もスタートさせました。世界の人としての自覚と責任ある行動にも期待します。

Q: 須木中学校の課題として、「思考力・表現力」を伸ばしていきたいとみなんで取り組んでいます。が、少しずつその成果が現れてきているように感じます。他の生徒たちも短歌や詩、ものづくり、絵画などの得意な分野で表現活動を行っています。また、生徒会を中心にSDGsの取組もスタートさせました。世界の人としての自覚と責任ある行動にも期待します。

「SDGs」を 学びました！

九月二十二日(水)、日本環境設計株式会社岩元美智彦会長に講師をお願いし、三年生を対象に「SDGsに関する講演会」を開催いたしました。岩元会長といえは、東京オリパラのメダルや日本選手団のユニフォームをリサイクル(地上資源)で手がけた世界的にも最先端技術を有するトップランナーです。僅か五分という時間でしたが、貴重な話を聞くことができました。「みんな参加型の循環社会 二〇三〇年を決める十年」という演題でした。①みんな参加、②無限大、③地上資源と地下資源、④正しいを楽しいに、⑤完全循環、⑥経済・環境・平和の六項目での話でした。



岩元会長が会社を創られた理由は、「経済と環境を両立させ、持続可能な循環型社会を形成するため」だそうです。循環型社会の主語を、「生活者」において考えているとの事でした。人生において迷いが生じた時に、この「生活者」にこだわることです。正しい道へと軌道修正ができるからとの事でした。これを基本に、持続可能な循環型社会のSDGsに取り組みしてい

るこの事で、岩元会長の技術でリサイクルは無敵大にできるのだそうです。(ケミカルリサイクル)世界が求める究極のリサイクル)。この技術をもつ会社は世界で岩元会長の会社だけだそうです。また、使い古された携帯電話から金・銀・銅のリアメタルを取り出す技術も岩元会長の会社が世界一だという事で、今回の東京オリンピックやパラリンピックのメダルもこれまでの地下資源を利用するのではなく、全てリサイクル(ゴミ)地上資源)で創ることができて大会に貢献することに成功したという事です。

リサイクル開発目標!

水平リサイクル
1対1
半永久的リサイクル



①技術ができて、②みんなが参加できる環境ができて、最後に、③興味のない人たちが自分事にさせるために、正しいを楽しいにかえる工夫が必要であると話されました。知ること←拡げること←参加すること←須木中学校でも楽しんで欲しいと話されました。